

私が学級担任をしていた最後の年の３月、東日本大震災が起きました。
あのように大きく長く続く揺れを経験したのは人生で初めてで、内心とても恐ろしく感じました。子供たちを守らなければならないと思いながらも、動揺していたのを覚えています。

穏やかな午後、帰りの会の前の時間を過ごしていた私たちは、突然の揺れに机の下へ身を隠し、収まるのを待ちました。

避難した校庭から教室に戻り、荷物を持って下校する際には、「もしかすると、この中の誰かと二度と会えなくなるかもしれない」という絶望的な思いを抱きながら別れたことを、今も昨日のここのように思い出します。

災害時に何より大切なのは、「自分の命は自分で守る」ということです。

訓練を通じて、避難の方法だけでなく、命を守るために必要な心構えをぜひ身に付けてほしいと願っています。

９月１日 避難訓練でのお話

皆さん、おはようございます。今日は「防災の日」です。

今から１００年以上前の大正１２年９月１日、日本の歴史の中でも特に大きな災害である関東大震災が起きました。

この地震により、多くの人々が亡くなり、私たちの住む街は大きな被害を受けました。私たちはこの震災の教訓を忘れず、いつ起こるか分からない災害に備えるため、この日を「防災の日」と定めています。

今日の避難訓練では、皆さんが真剣に取り組んでくれたことを大変嬉しく思います。

訓練は、地震や火事が起きたときに、皆さんの命を守るためのとても大切な練習です。

訓練で確認した「お・か・し・も・ち」の約束、「押さない」「駆けない」「喋らない」「戻らない」「近づかない」は、皆さん自身を守るための合言葉です。いざという時に、この約束をしっかりと守り、落ち着いて行動することが、自分の命を守ることに繋がります。

日本は地震の多い国です。

今日のように学校にいる時だけでなく、家にいる時や、お出かけしている時に災害に遭うかもしれません。

そうした時に備えて、家でも家族みんなで災害について話し合ってください。

避難場所や連絡の方法、非常持ち出し袋の中身などを確認し、もしもの時にどうするか決めておくことが大切です。

災害はいつ、どこで起こるか分かりません。

しかし、もしもの時に備えて準備をしておくことで、皆さんの命を守ることができます。

「自分の命は自分で守る」

今日の避難訓練で学んだことを忘れず、これからの一日一日を大切に過ごしてください。そして、家族や周りの人々と協力して、もしもの時に備える心を育んでほしいと思います。